



## 保護者ができる「自立」へのサポート 6つのポイント

進路アドバイザー  
女子栄養大学常任理事  
染谷 忠彦

### ①「自立」を促すことが子育て最後の仕上げ

10代後半の思春期の子どもは、社会性も含めた基本的な生活習慣の確立という意味での子育てはほとんど終わっています。受験期の子どもに対しては、子育ての最後の仕上げとして「自立」を促すことに力を注ぎましょう。「自立」とは、子どもが将来の目標と、それを実現するために進むべき道を自らの力で決定し、それに向かって自ら前進していくことです。この「進路支援」が、思春期の子育てで最も重要なポイントです。

### ②保護者は自信を持ってアドバイスを！

進路支援では、子どもの目的意識が大きな力を発揮します。目的意識のある子どもは、大学の勉強も卒業後の仕事も積極的に取り組むようになります。子どもにしっかりした目的意識があれば、保護者はじっと見守っているだけでもいいのです。目的意識の醸成を助けるのが保護者のアドバイスです。社会経験に基づいた保護者の「生きた体験談」は、子どもには新鮮な刺激になります。進路について親子が話をするとき、子どもの言うことより、実社会で働き、日々生活を営んでいる保護者の言うことのほうが正しい場合が多いのですから、自信を持ってアドバイスしましょう。

### ③大学選びは教育環境が決める

少子化で入試が多様化し、学部・学科も何が学べるかわかりづらい名前が増えていきます。保護者も子どもにアドバイスする立場から、大学について研究する必要があります。ただ、せっかくオープンキャンパスなどに来たのに、資料だけもらって帰るのではもったいない。まず相談コーナーに座って、たくさん質問をしてください。何を聞いていいかわからなくても、大学の人は親切にいろいろな説明してくれます。もう一つ大切なことは、受験校が決まったら、普段のその大学を見ておくこと。教室をのぞき、学生が静かに授業を受けているかどうかを見ましょう。教育環境がしっかりしていることが大学選びの一番の決め手です。

### ④社会で求められる人材になろう

企業では、給与のほかに社会保険や福利厚生など、社員にかける人件費は賃金の1.5～2倍といわれています。ですから、企業が優秀な人材を厳選して採用したいと思うのは当たり前のことです。では、企業で求められない人とは、どんな人でしょうか。企業関係者からよく聞く話では、「親がかり」、すなわち親がすべてやってしまうタイプは、企業では必要とされません。大学では、もちろん勉強し知識

を得ることも大切ですが、勉強以外の部分、たとえばクラブ・サークル活動やアルバイトなど、自分のことは自分でやろうとする、主体的な活動を充実させることも必要です。それが社会性や集団行動、コミュニケーション能力など、社会で必要とされる力を養うことになります。

### ⑤学歴と生涯賃金の関係

大学で資格をめざすなど、しっかりとした目的意識を持った学生は借金をしてでも大学で勉強しようとしています。自分の学費は自分で働いて稼ぎながら二部（夜間課程）で学ぶ学生もいます。彼らは「自立」しています。学歴と生涯賃金の関係でみると、およそ大卒で3億円に対し、短大卒・高卒で2億5千万円と、5千万円の違いがあるといわれています。学費は、いわば将来への「自己投資」なのです。私は今後、「学生が自分で稼いで大学に行く」社会へと転換すべきだと思っています。もちろん学生がフルタイムで働くのは難しいので、奨学金や教育ローンなどを利用して、社会人になってから返す方法をとればいいのです。

### ⑥朝食をきちんととれば3点アップ！

女子栄養大学の調査によると、朝食をきちんと摂る受験生とそうでない受験生とでは成績に3点の差が出ています。入試で3点といえば、大きな大学なら数百人から千人の差が出てきます。合否への影響は明白です。そして、普段から保護者が手を加えた料理を食べさせているかどうかで、さらに3点違ってくるという結果が出ています。合計で6点違えば、入試では間違いなく千人以上の差が出てきます。つまり、最後は健康なのであり、健康でなければ試験も乗り切れないし、社会に出て活躍できないのです。子どもの食生活への気づきも大切にしましょう。

#### プロフィール●そめや・ただひこ

現在、女子栄養大学の常任理事として学園運営（政策、広報、教学）を担当している。先駆けた大学改革・入試改革・教学改革（学部・学科設置、教務諸制度の整備）など斬新な広報などを手がけることで、マスコミ（TV・新聞・雑誌）でも話題に。最近では、私立大学での実績を生かして、公立大学法人第1号である秋田県の国際教養大学の立ち上げを準備段階から協力し、現在も大学運営に携わっている。ほかに、全高進大学進学指導研究委員会委員・高等学校評議会委員・高等学校キャリアスーパーバイザー・日本私立短期大学協会広報委員会委員を務め、進路指導勉強会やPTA総会、学校経営セミナー等でも幅広い講演活動を行っている。特に「受験生と親がどのように受験を乗り切るか」についての講演が多い。最近では高校での進路指導の方法・思春期の子を持つ親の役割・大学の募集戦略について研究中。